

# リゴレット 女心の歌

La donna è mobile 女は気まぐれだ

ラ ドンナ エ モービレ

Qual piuma al vento, 風になびく羽根のように

クワル ピューマル ヴェント

Muta d'accento e di pensiero. 言うことも変わる、そして考えも(変わる)

ムータ ダッチェント エ ディ ペンスイエーロ

注) スィの発音に注意

Sempre un amabile, いつも愛らしく感じの良い

センプレウナーマービレ

Leggiadro viso, In pianto o in riso, è menzognero. 泣いているときも笑っているときも嘘がある

レッジャードロ ビーソ イン ピアントインリーゾ エ メンツォニエーロ

donna 女 mobile 気まぐれ piuma 羽根 vento 風 accento 口調

pensiero 考え sempre いつも amabile かわいい leggiadro 愛らしい viso 表情

pianto 泣くこと riso 笑顔 menzognero うそつきの

## リゴレットのあらすじ

宮廷に使える道化リゴレットには、愛する娘ジルダがいます。女たらしのマントヴァ公爵は、リゴレットが密かに育てているジルダをもてあそびます。

それを知り、怒ったリゴレットは殺し屋スパラフチーレに「公爵の殺害」を依頼するのです。

嵐の夜、殺し屋スパラフチーレの家(宿屋)の外にはジルダとリゴレット。

リゴレットは公爵のことを忘れられずにいるジルダを、公爵の本性を見せるため、宿屋の中をのぞかせます。宿では、公爵が「女心の歌」女は気まぐれ(La donna è mobile)と歌いながら、スパラフチーレの妹マッダレーナを口説いています。ショックを受けるジルダ。

スパラフチーレと妹マッダレーナの会話から、マントヴァ公爵が殺される計画を知ったジルダは、公爵を愛するが故に身代わりとなります。

リゴレットは金と交換に公爵が入っていると信じる袋を受け取り、海に沈めようとしたとき、遠くから公爵の歌う女心の歌が聞こえてきます。

「やつは生きている」「ではこの中には誰が」驚きと不安で袋を開けると、そこには息絶え絶えの愛娘の無残な姿。死にゆく娘を抱き、絶望の中でオペラは終わります。